

倫理哲学 Ethical Philosophy

素養科目 1、2、3年／前期または後期 1単位 選択科目

科目責任者 川北 晃司 (倫理学研究室)

■ 教育目的

倫理・哲学の歴史的な思想・理論・課題について (本授業で扱える範囲は限定的となるが) 深く知るとともに、現代における環境倫理、生命倫理、科学技術倫理、企業倫理、青年の課題など、広範囲の応用倫理的なテーマについて考察する。

■ 学習到達目標

1. 倫理・哲学的な思想 (家)・理論・課題について列挙できる (知識)
2. 倫理・哲学的な思考態度・習慣を評価、意図できる (知識、態度)
3. 自分のライフサイクルのあり方について見つめ直せる (態度)

■ 準備学習 (予習・復習)

予習：高校での倫理履修者は倫理教科書を読み返しておく。ただし本授業の展開は倫理・哲学に関する基礎知識を全く前提していない

復習：ノートおよび配布プリントを読み返し、疑問点はないか確認する

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入	心理学から哲学へ	A (2) -5-1~2
2	哲学と倫理	哲学とは、倫理とは 大人になることのむずかしさとは	A (2) -5-1~2
3	青年期の発達課題	心理的防衛機制とは 神谷美恵子『人間をみつめて』(1974年)	A (2) -5-1~2
4	個性・運命・使命	R. カーソン・田中正造・田尻宗昭 ビデオ教材「海を返せ」(NHK 総合、シリーズ「ある人生」、1970年)	A (2) -5-1~2
5	環境倫理	ビデオ教材「地球環境破壊は止められるか」(NHK アーカイブズ、2006年)	A (2) -5-1~2
6	目的と手段	ビデオ教材「目的は手段を正当化するか」(Intelecom、1998年)	A (2) -5-1~2
7	効用と義務	功利主義・義務論	A (2) -5-1~2
8	ヨーロッパ古典古代における一倫理的対比	エピクロス派とストア派	A (2) -5-1~2
9	フランス・モラリスト (1)	M. モンテーニュ (1533-1592) の教育論、文明論、懐疑主義	A (2) -5-1~2
10	フランス・モラリスト (2)	B. パスカル (1623-1662) の認識論、心情論、実存主義	A (2) -5-1~2
11	イギリス・経験論の祖	F. ベーコン (1561-1626) の経験論、学問論、実用主義	A (2) -5-1~2
12	日本近世の伝統文化における一倫理的対比	武士道と商人道	A (2) -5-1~2
13	近代日本を作った一思想	福沢諭吉『学問のすずめ』(1872年)	A (2) -5-1~2
14	認識における「公正」の追求としての哲学	フェアネス (公正) とは 「集団浅慮」の 8 つの症状と 6 つの対策	A (2) -3-1~2 A (2) -5-1~2
15	(期末試験)		

■ 授業分担者

No. 1 ~ 15 川北 晃司

■ 成績評価方法

期末試験 (70%)、授業中のレポート (30%) で総合評価するが、受講態度も考慮することができる

■ 教科書

指定なし

■ 参考書

授業中に指示する